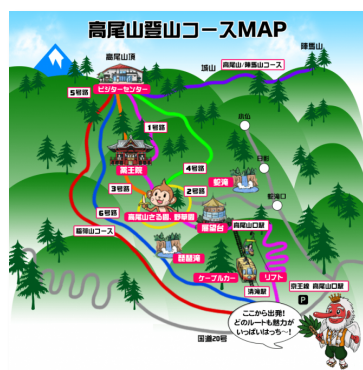


高尾の峯の彼方には

大和田囀碁同好会 成田 滋

先日、3年振りに高尾山に登ってきました。快晴の8時半頃、大和田同好会の村野良信氏に電話して、「一緒に登りませんか」と誘いました。ところが「今、薬王院にいる」というのです。村野氏が毎日薬王院に登って朱印をもらっているのを知ってはいましたが、まさか8時半に高尾山にいるとは驚きでした。

2019年に私は八碁連会長となり、いくつかのことを実現したいと考えていました。暖めていた八碁連のエンブレム、八碁連応援歌や八碁連旗を作ることなどでした。エンブレムは、吉澤實元会長の後押しもあって実現しました。私は応援歌用に拙い歌詞を作り、南大沢同好会会員であった三浦晴久氏にお見せし作曲を依頼しました。次のような歌詞です。



- 1 高尾の峯の彼方には 囀碁数千年の歴史あり
この盤上の縦横に 無限の宇宙がそこにあり
- 2 高尾の峯を望みつつ 伝統文化の発展に
その一翼をにないつつ 我らは集いて競い合う
Go 碁! フレー、フレー 八王子

三浦氏が多摩管弦楽団でヴァイオリン奏者として活躍されていたのを私は知っていました。その後お会いすると、シューマンの交響曲第二番「ライン」の演奏会に備えているとのことでした。その演奏会に誘われたのですが、あいにくその日は都合があり演奏を聴き逃しました。応援歌は、明るい古典的な旋律で誰もが歌いやすい仕上がりとなりました。楽譜にある「フレー、フレー」という8小節は三浦氏が追加されたものです。

応援歌の歌詞に「高尾の峯」を挿入し、八碁連の文化と伝統を外に向けて宣言したいと意図していました。本部主催の大会前で応援歌を歌い、会員の意識や矜持、そして連帯感を高めるのに役立つのではとも考えました。いろいろな組織、たとえば大学なら大学歌、会社なら社歌を作って、節目のときに皆で歌うものです。しかし理事会は歯牙にもかけず、応援歌は一笑に付されてお蔵入りとなりました。八碁連にも遊び心や洒脱さがあってもよいはずだと思ったものですが、、、。三浦氏は2023年の6月に急逝されました。

高尾山に久しぶりで登りながら、三浦氏が作曲された幻の「高尾の峯の彼方に、
囲碁数千年の歴史あり」の歌詞を口ずさみました。

(2023年10月13日)